

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

和歌山県紀美野町消防本部

1. 紀美野町の紹介

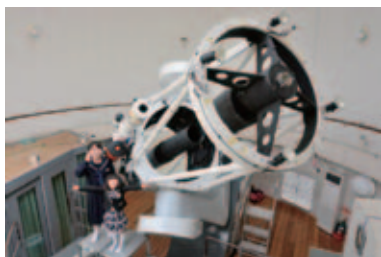
紀美野町は、平成18年に旧野上町と旧美里町が合併し誕生した町で、和歌山県の北部に位置し、霊峰高野山を源にもつ貴志川が町の中央を東から西に流れ、その流域に広がる丘陵地と山地からなっています。総面積128.34平方キロメートル、人口約9,200人の町で、公募により紀州の「紀」、美里の「美」、野上の「野」から「紀美野町」と命名されました。

自然や歴史、グルメなど様々な年齢層でも楽しめる施設が充実している町です。みかん・梅・山椒・柿などが特産物として有名であり、それらの特産物を利用した加工品も充実しています。

また、素晴らしい景観や、豊かな自然とマッチした施設もたくさんあります。

都会とは比べものにならないほど綺麗な星空が眺められる「みさと天文台」。ここには、和歌山県下最大口径105cmのカセグレン式反射望遠鏡を完備しており、夜の星空を楽しむには最高の場所です。

○みさと天文台(望遠鏡)



関西随一のスキの名所「生石高原」では、黄金のスキが一面に広がる大パノラマが広がっています。映画やプロモーションビデオ

のロケ地としても利用されており、最近では結婚式用の写真撮影などで利用されるなど、普段では見られないような美しい景色を楽しむことができます。

○生石高原



のかみふれあい公園には、約1万平方メートルの広大な芝生やスウェーデン製の木製遊具「ノアディ城」、36ホールを備えたパークゴルフ場やオートキャンプ場が整備されています。また、宿泊施設も充実しており、1日中楽しめる町です。

最近では「隠れグルメの里」として、お洒落なパン屋さんやカフェ、レストランなどがたくさんできており、休日になると多くのお客様で賑わっています。

2. 紀美野町消防団の概要

平成18年1月の新町誕生に伴い、旧町の消防団を統合し、団本部と16の分団、定数586名で紀美野町消防団が設置されました。

平成28年4月1日現在、実員数542名、防災活動車1台、救助資機材搭載型車両1台(総務省消防庁借受車両)、消防ポンプ自動車2台、小型動力ポンプ積載車29台を配備し、住民の生命と財産を守るべく積極的に活動しています。

紀美野町消防団の主な活動は、通常の災害活動の他に、火災予防や住宅火災警報器設置の啓発活動、生石高原山焼きや夏祭花火会場での警戒活動、さらには、ポンプ操法訓練、放水訓練等多岐にわたり住民の安全・安心のための活動を実施しています。

特に当町では、現在65歳以上の高齢者比率が43.2%と非常に高く、山間地域に住居が点在していることから、全国各地で多発する大規模地震や豪雨災害などの自然災害にも対応すべく、消防力の充実強化対策として各種救助器具やAEDを町の拠点となる地域の分団に配備し、分団毎に救助器具取扱い訓練や全団員を対象に普通救命講習を実施するなど、災害時の救命率向上にも積極的に取り組んでいます。

3. 消防団員安全管理セミナー開催の経緯

消防団を中核とする地域消防力の充実強化に関する法律の施行を受け、過疎化する地域の安全を守るため、消防団員に対する期待が大きく、装備の充実と団員の資質の向上を目指すとともに、



研修の様子



に、消防団員の公務災害事故ゼロを目指して、消防団員一人一人が自らの知識を高め、より一層の安全を確保するため、「安全管理セミナー」を開催することになりました。

4. 消防団員安全管理セミナーの様子

平成28年9月4日(日)、紀美野町農村総合センターにおいて、消防基金S-KYT指導員の森方功先生をお迎えし、団幹部をはじめ経験の浅い団員を含め80名の方が受講しました。

受講者は、あらためて日頃からの健康管理や安全管理の重要性並びに動作確認の必要性について学び、参加者全員が指差し呼称することで一丸となって公務災害事故ゼロを目指すという一体感が出たとの感想が多数寄せられました。

また、早い機会にS-KYT研修なども受講したいとの声も聞かれました。

5. おわりに

近年、各地で大規模な災害や特殊な災害が多発する中で、当地域でも南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。

今後、常備消防と連携しながら更なる災害対応能力の向上を図り、過疎化と高齢化が急速に進む地域の方々に、より質の高い安全と安心を提供できるよう、全団員が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。



指差し呼称